

スポーツ振興対策特別委員会会議録

令和3年1月22日

場 所 第4委員会室

令和3年1月22日（金曜日）

午前9時58分開会

会議に付した案件

○協議事項

1. 委員会報告書骨子（案）について
 2. 次回委員会について
 3. その他
-

出席委員（11人）

| | | | | | |
|-----|---|---|---|---|----|
| 委員 | 長 | 窪 | 菌 | 辰 | 也 |
| 副委員 | 長 | 河 | 野 | 哲 | 也 |
| 委員 | | 星 | 原 | | 透 |
| 委員 | | 横 | 田 | 照 | 夫 |
| 委員 | | 日 | 高 | 博 | 之 |
| 委員 | | 日 | 高 | 陽 | 一 |
| 委員 | | 脇 | 谷 | の | りこ |
| 委員 | | 安 | 田 | 厚 | 生 |
| 委員 | | 渡 | 辺 | | 創 |
| 委員 | | 来 | 住 | 一 | 人 |
| 委員 | | 凶 | 師 | 博 | 規 |

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

事務局職員出席者

| | | | | |
|-----------|---|---|---|---|
| 政策調査課主任主事 | 田 | 中 | 孝 | 樹 |
| 政策調査課副主幹 | 前 | 野 | 陽 | 子 |

○窪菌委員長 おはようございます。それでは、ただいまからスポーツ振興対策特別委員会を開会いたします。

本日の委員会の日程についてでございますが、お手元に配付の日程（案）を御覧ください。

本日は、委員会報告書骨子（案）及び次回委

員会等について御協議いただきたいと思いますが、このように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、そのように決定させていただきます。

では、早速ですが協議事項（1）委員会報告書骨子（案）についてであります。

お手元にA3版の資料が配付されているかと思しますので御覧ください。

それが正副委員長のほうで作成しました委員会報告書の骨子（案）でございます。

ローマ数字Ⅱでございますけれども、調査活動の概要につきましては当委員会のこれまでの活動内容を体系的に整理して章立ていたしました。

具体的には、1、国民スポーツ大会・障害者スポーツ大会開催に向けた準備状況、2、競技力の向上に関すること、3、スポーツランドみやざきの更なる推進に関することの三つの章で構成しております。

それぞれ御覧いただいておりますような項目に分けて、調査の内容、委員会としての意見等について記述することとしております。そして、最後の結びのところで全体を総括したいと考えております。

詳細につきましては書記に説明させます。よろしく申し上げます。

○田中書記 では、御説明申し上げます。座って説明させていただきます。

資料の左上、ローマ数字のⅡ、調査活動の概要から御覧ください。

前書きの部分で、調査項目設定の経緯等を整理しておりますが、説明は省略させていただきます。

まず、真ん中あたりの1ですが、調査項目の

前提となる事項としまして、国スポ・障スポ開催に向けた準備状況について記載します。

（1）及び（2）では、執行部の説明を基に、大会の開催期間や競技数といった概要と、現時点での準備状況について記載します。

（3）では、県内調査で新富町から伺った国スポ開催に向けての課題について記載します。

以上を踏まえ、（4）県への提言を2つ挙げております。

一つ目は、市町村が開催に関する課題に対して十分時間をかけて検討できるよう、全体像を早期に示すことを提言します。併せて、会場の早期決定は競技力向上の点でも重要であること、今回のコロナ対応で市町村にとって会場整備の財政的な負担感が増すため財政的な支援も検討すること、についても記載します。

②ですが、ほかのイベントとの開催時期の調整を行うこととしています。ほかのイベントと国スポの時期がかぶり、観客が県外に泊まることになると、不便であるのみならず経済効果も小さくなりますので、特に宿泊については配慮するよう記載いたします。

続きまして、2、競技力の向上に関するところで、調査項目のうち三つ、選手の育成発掘、指導者育成、体育施設の充実についてまとめて記載します。

まず、（1）では本県の天皇杯順位の推移を、（2）では競技力向上基本計画の策定などについて記載します。

（3）から（5）は調査項目ごとに項目を立てておりますが、ここではまとめて説明させていただきます。

いずれの項目でも、①では執行部から説明のあった競技力向上基本計画の内容や、今後の方向性について記載いたします。②以降では県内

調査で伺った高校の主な取組や意見を記載します。

以上を踏まえまして、資料の右側の一番上になりますが、（6）県への提言を5つ整理いたしました。

①は未普及競技に関する提言です。国体では他県のトップ選手と競う必要があることから、小・中学生の競技人口拡大に取り組むこととしています。併せて、練習に伴う自己負担の減を支援すること、協会運営や広報活動等について人的な支援も検討することについても記載いたします。

続いて、②では小林高校で伺った住環境などの事情で施策から漏れる選手もいるというお話から、児童への支援方法の拡大を要望します。また、特に人口減少地域では学校の部活動が維持できず生徒のスポーツの選択肢が狭まるため、これを補う総合型地域スポーツクラブなどへの支援を要望します。

③では、けが予防や早期治療について提言を行います。日章学園や小林高校の取組を例に、食育や地域医療との連携といった取組の支援を進めること、また、年齢に見合う指導方法や練習内容について、小・中・高の指導者が情報共有する場をつくることを要望します。

続きまして④です。小林高校で老朽化しているウエイトリフティング場を見学しましたが、執行部によれば、現時点では改修予定はなく宮崎市内に拠点施設を造る予定であるという説明がございました。合宿ができるような練習拠点施設も必要ですが、児童生徒にとっては日常的な練習環境が重要でありますことから、学校近辺の練習環境を充実させることという提言としております。

最後に⑤です。競技力の強化については、県

や市町村の取組では手の届かない部分もあり、私立学校や民間企業の自発的な取組も必要となります。今後、私立学校や民間企業からさらなる協力を得るためには、県の取組姿勢を見せる必要があるという観点から、天皇杯獲得に向けリーダーシップを発揮し、全県的な気運の醸成を図ることという提言としております。

続きまして、3、スポーツランドみやぎきの更なる推進に関することです。

(1) では、スポーツランドみやぎきの概況や県の長期計画での位置づけについて記載します。

(2) の①では、令和元年度のスポーツ合宿数の内訳から、全県化、通年化、多種目化という課題の実態を記載します。

②では執行部の取組を、③から⑥では県内調査で伺った各団体の取組を記載いたします。

続いて、(3) スポーツの振興について及び(4) スポーツを切り口とした産業の拡大についてでは、カッコ内に挙げておりますような執行部から説明があった取組について記載いたします。

以上を踏まえまして、(5) 県への提言を4つ整理いたしました。

①です。スポーツランドみやぎきの全県化のための大局的な戦略を策定することとしております。スポーツランドみやぎきを推進する戦略を考えるに当たって、合宿施設がメディカル面などで高度化を求められる一方で市町村の予算は多くありません。このため、各市町村の個別の取組に任せるのではなく、市町村をリンクさせるような大局的な戦略を県が示す必要があるということで、このような提言としております。

また、適切な戦略を立てるためには、宮崎の長所、短所を他県と比較して分析することが重

要ですので、これも併せて記載いたします。

②です。定年後の教員やスポーツ選手OBが指導者として活躍しやすい環境をつくることとしております。総合型地域スポーツクラブや老人クラブなどで指導者を確保しやすくなるような施策を研究することをまず要望いたします。

また、ツノスポーツコミッションの取組を参考にしまして、県内の現役選手や学生アスリートに対して就労支援を行うことで安心して競技に集中してもらうとともに、引退後に地域のスポーツに関わってもらえるような仕組みを検討することについても併せて提言いたします。

次に③です。合宿地におけるスポーツメディカル体制の有無は年々重要になっております。また、合宿施設の感染症対策や来県するチームへの各種検査等も誘致につながりますことから、医療と連携した事業や施設の充実について大学や事業者と協力し推進することを提言いたします。

続いて④です。多種多様なスポーツの普及推進とともに様々な付加価値を開発することとしております。執行部の県民にスポーツを普及させる施策やスポーツを通じて観光客を呼び込む施策を見てまいりましたが、県民や観光客の持つ様々な目的や需要に応じるためには、多様なスポーツ環境の整備や、スポーツとほかのものを組み合わせる付加価値をつけることが重要でありますことから、多種多様なスポーツの普及推進とともに様々な付加価値を開発することという提言としております。

最後に、ローマ数字のⅢ、結びであります。

ここまでの提言を総括しますとともに、スポーツランドみやぎきの推進と競技力向上は相乗効果があるので、一層、連携を強化することを要望します。さらに、県内で芽生えつつあるス

スポーツとほかの分野を組み合わせた事業が発展すれば、本県の産業や地域活動についてスポーツを軸とした活性化が期待できる、ということを書きます。最後に、スポーツが宮崎県全体を支える背骨となるよう、官民の取組が盛んになることを期待する、としまして結びとしたいと思います。

大変長くなりましたが、説明は以上であります。

○窪菌委員長 どうもありがとうございました。

正副委員長からの案につきましては、説明は以上であります。委員の皆さん方から御意見等がありましたらお願いしたいと思います。

○横田委員 新富町に行きましたよね、テゲバジャーロ宮崎の拠点が新富町になるということなんですけれども、それを応援する環境というか、県民みんなでそれを応援するんだという環境をつくるのがすごく大事ではないかと思うんです。でないと、何もしなかったらせっかくJ3になったのに自然消滅してしまうような、そういう不安を感じるものですから、みんなが行って応援できるような——アクセス道路とかJRの特急列車の停車とか、そんなのを含めてですけれども——応援体制が整うような環境づくりも入れたほうがいい気がしなくもないんですけれどもね。

○日高博之委員 3番のスポーツランドみやぎの更なる推進に関する（5）の④がそんな感じだから、そこに具体的に、例えばテゲバジャーロ宮崎を応援するという付加価値というふうに加えれば良いんじゃないですか。

○横田委員 応援文化というものもあるような気がするんですよ。例えば、野球でも今の東京ドームとか、ああいうところに行ったら応援が全然違うじゃないですか。宮崎で公式試合があっ

たときは応援が何かぎこちないんですよ、応援のやり方がよく分からなくてですね。だから、そういう応援文化をつくっていくこともすごく大事ではないかなと思うんですけども。

○窪菌委員長 今のことについては、このあたり挿入するというので、ほかにございせんか。

○脇谷委員 小林高校のウエイトリフティングなどの体育施設の整備については、この（6）県への提言の、③けが防止の取組支援なのか、④練習環境が重要であるのか、ちょっと分からないんですが、体育施設を整備するというか、そういった文言が必要ではないかと思うんですけどもいかがでしょうか。

○窪菌委員長 これについては、④のところは日常的な練習環境が重要であると、部活を通じて練習する環境が大事だということで、入れたつもりなんですけれども。今、言われるような表現にしても良いかと思いますが。

○日高博之委員 環境整備と施設整備は一緒の意味になるんですかね。

○窪菌委員長 施設整備という言葉を入れたほうがいいですかね。では、そのように検討いたします。ほかにございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、特にほかはないようですので、委員会報告書骨子（案）については、先ほど申し上げたものを入れまして検討させていただきます。報告については資料のとおりでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、異議なしということでございます。この委員会報告書骨子（案）を基に委員会報告書（案）を作成してまいりたいと思います。

なお、委員会報告書そのものにつきましては、正副委員長に御一任いただき、案が出来上がりましたら、印刷のスケジュールの関係で個別に御了解をいただきたいと考えておりますがよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 異議なしということで、そのような形で進めさせていただきます。

出来上がりしました報告書につきましては、ほか二つの特別委員会の分と合冊して、2月定例議会の最終日に議場で配付することとなっておりますので、御了承をお願いしたいと思います。

次に、協議事項（2）の次回委員会についてであります。

次回委員会は、2月定例会中の3月15日に開催を予定しております。

次回委員会では、私が行います委員長報告の案について御協議いただきたいと思います。

次回の委員会について、何か御意見等はありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 意見が特にないようでございますので、先ほど申し上げましたとおり、次回委員会では委員長報告（案）について御協議いただきたいと思います。

最後になりますが、協議事項（3）のその他で委員の皆さん方、何かございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、次回の委員会は3月15日、月曜日、午前10時からの予定でございます。よろしく願いいたします。

以上をもちまして、本日の委員会を閉会いたします。お疲れさまでございました。ありがとうございました。

署 名

スポーツ振興対策特別委員会委員長 窪 菌 辰 也

